

第2章

まちづくりの現状

第2章 まちづくりの現状

2-1 まちづくりの経緯

篠路は早山清太郎の入地以降、開拓農村の歴史や藍染・篠路歌舞伎などの文化が残る、歴史の長い地区です。玉ねぎの栽培により農村地帯として栄え、現在でも玉ねぎの貯蔵・発送に用いられていた石造りやレンガ倉庫が駅周辺に残ります。

昭和30年の札幌市との合併以降住宅地として発展し、早くから地域の方々がまちづくりに関心を持ちながらまちづくりが進められてきました。

近年では、平成25年度策定の「札幌市まちづくり戦略ビジョン」において地域交流拠点として位置付けられ、「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」に基づき、社会基盤整備事業が進められています。

篠路駅周辺地区のまちづくりに係る年表

安政6ころ	1859	●	幕吏荒井金助に命じられて、早山清太郎が篠路に荒井村の創設を進めた
明治15	1882	●	徳島県人滝本五郎らが「興産社」を組織して篠路に入植し、藍を栽培
明治35	1902	●	篠路村烈々布部落で篠路歌舞伎始まる
昭和9	1934	●	JR 札沼線（桑園～当別間）開通、篠路駅開業
昭和30	1955	●	琴似町・篠路村が札幌市と合併
昭和60	1985	●	篠路コミュニティセンター開館、篠路歌舞伎・藍染が復活
昭和60	1985	●	篠路駅周辺活性化促進期成会発足
昭和63	1988	●	第三次札幌市長期総合計画で「地域中心核」に位置付け
平成6	1994	●	「グリンピアしのろ」開発決定
平成7	1995	●	篠路駅周辺活性化促進期成会から篠路地区開発計画対策委員会に組織改組
平成9	1997	●	篠路地区開発計画対策委員会から篠路地区街づくり促進委員会に組織改組
			・ 篠路地区駅周辺と横新道を考えるワークショップの実施 →まちづくりガイドライン策定
			・ 「グリンピアしのろ」分譲開始
平成13	2001	●	「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」策定
平成14	2002	●	篠路アンダーパスが開通
平成16	2004	●	花畔札幌線（篠路駅前団地本通線～伏籠川）整備完了
平成19～	2007～	●	篠路駅西地区再開発事業実施
平成21	2009	●	
平成23	2011	●	横新道（国道231号から東8丁目・篠路通間）整備完了
平成25	2013	●	札幌市まちづくり戦略ビジョン策定（篠路地区を「地域交流拠点」に位置付け）
			・ 「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」にて、鉄道高架と区画整理を柱とした一体的なまちづくりを目指すことを表明

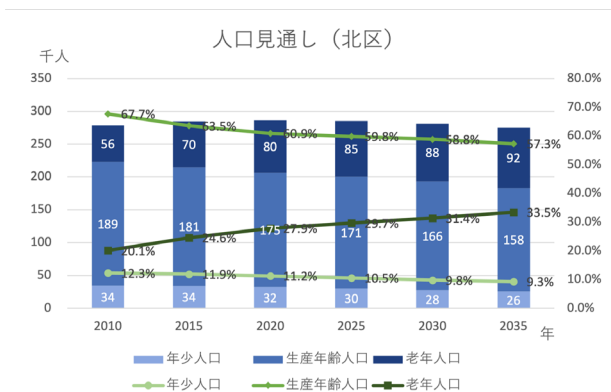
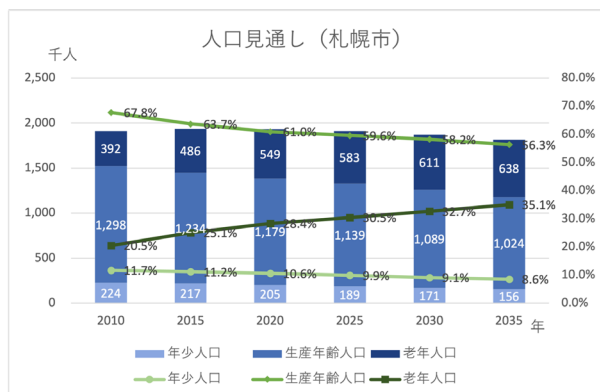
- 平成 27 **2015**
 - ・ 第 2 次札幌市都市計画マスタープランで先行して取組を進める拠点として位置付け
- 平成 28 **2016**
 - ・ 烈々布幹線（横新道～篠路横 21 号線間）整備完了
 - ・ 篠路の未来を考える「まちづくりワークショップ」の実施
 - ・ 篠路出張所の機能強化等に関する要望書提出
- 平成 29 **2017**
 - ・ 篠路駅周辺地区まちづくりに関するアンケート調査
 - ・ みんなの思い取りまとめ会議
 - ・ 土地区画整理、鉄道高架、道路整備の都市計画決定・変更
 - ・ 「篠路出張所における窓口サービス等の充実について」の策定
- 平成 30 ~ **2018 ~**
- 令和元 **2019**
 - ・ 篠路駅周辺地区のまちづくりに関するアンケート調査
 - ・ 篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議の実施
 - ・ 篠路駅東口駅前広場の都市計画変更
- 令和 2 **2020**
 - ・ 土地区画整理、鉄道高架、道路整備の事業化
- 令和 3 **2021**
 - ・ 篠路出張所の増築棟工事
 - ・ 篠路駅西通供用開始
- 令和 4 **2022**
 - ・ 篠路出張所既存棟改修工事
 - ・ 篠路出張所機能強化（窓口サービス等の拡充）

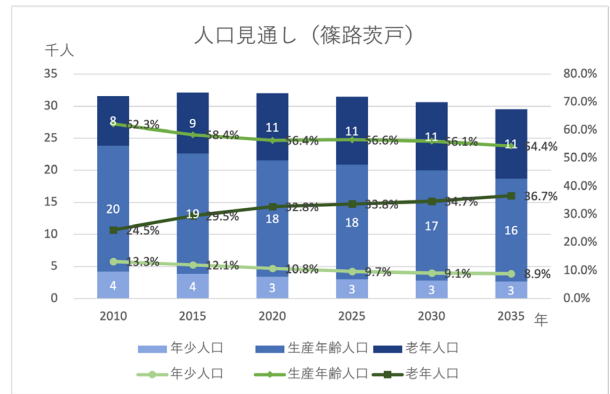
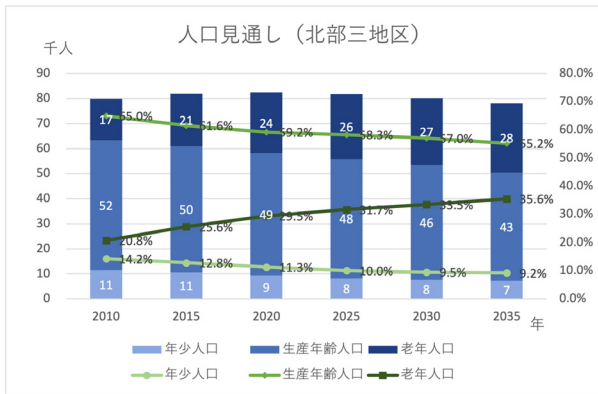
2-2 人口

(1) 少子高齢化の現状

札幌市の人口はこれまで増加の一途をたどってきましたが、減少局面を迎えています。篠路・茨戸地区の人口も、札幌市の人口と同様に今後減少傾向に転じることが予測されています。

年齢 3 区分別（年少 0 歳～ 14 歳、生産年齢 15 歳～ 64 歳、老年 65 歳以上）に見ると、篠路・茨戸は高齢化率が比較的高く、また、生産年齢人口が少なくなっています。今後も老年人口は増加する見込みとなっており、高齢化の進行が予想されます。



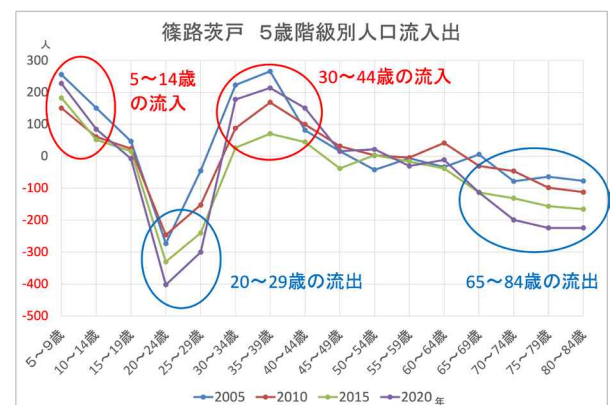
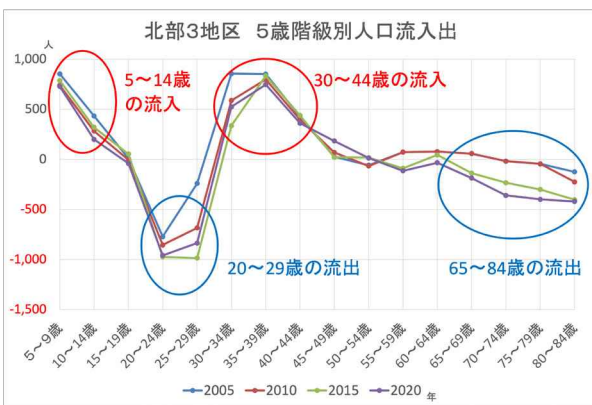
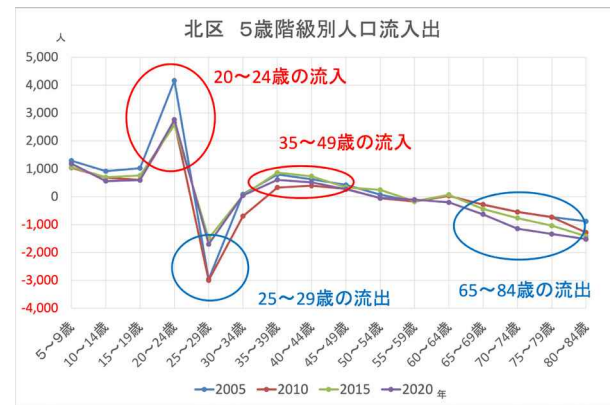
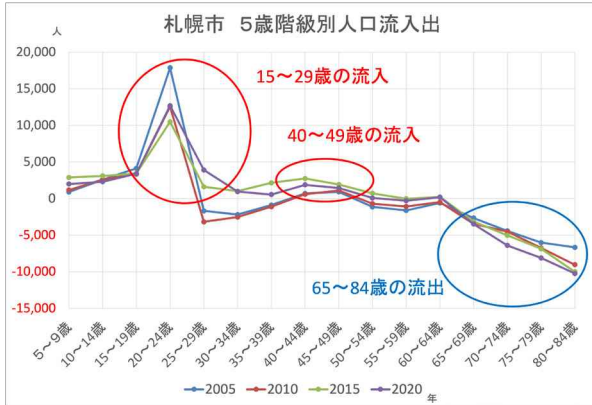


出典：札幌市「将来推計人口に基づく地域分析調書」国勢調査をもとに作成

図 人口見通し

(2) 人口の流入出

5歳階級別の人口の流入出を見ると、札幌市と北区、北区北部3地区と篠路・茨戸で異なる傾向を示しています。篠路・茨戸地区は5～14歳、30～44歳人口が流入しています。これは、篠路・茨戸地区は住宅地であり、子育て世代などの転入によるものと考えられ、北区北部3地区全体でも同様のことが言えます。一方で、20～29歳の人口流出が顕著となっており、大学等への進学や就職を期に転出していることに起因していると考えられます。



出典：住民基本台帳人口より作成

図 5階級別人口流入出

2-3 主要な施設

(1) 医療・福祉施設の状況

医療施設は小規模から中規模の施設が地区全体に分布しています。

福祉施設は、市有地周辺を中心に機能集積が進んできました。特に地区の東側には介護サービスに関する施設が多く集まっています。

(2) 商業施設の状況

商業施設は、東8丁目・篠路通や横新道の沿道に小売店舗が立地しています。篠路駅東側の駅前には商業施設は少ない状況です。

(3) 保育・教育施設の状況

【保育園】

篠路駅周辺地区には、認定こども園も含めて5つの保育園が立地しています。2022年4月現在の札幌市の待機児童数は0（国定義保育所等入所待機児童^{※4}）となっています。

【小学校・中学校】

北区の小学校は、近年児童数が増加しているのに対し、篠路駅周辺の小学校の児童数は減少傾向にあります。

北区の中学校は、生徒数が減少傾向にあります。篠路駅周辺の中学校についても生徒数は減少傾向にありますが、その傾向は緩やかです。

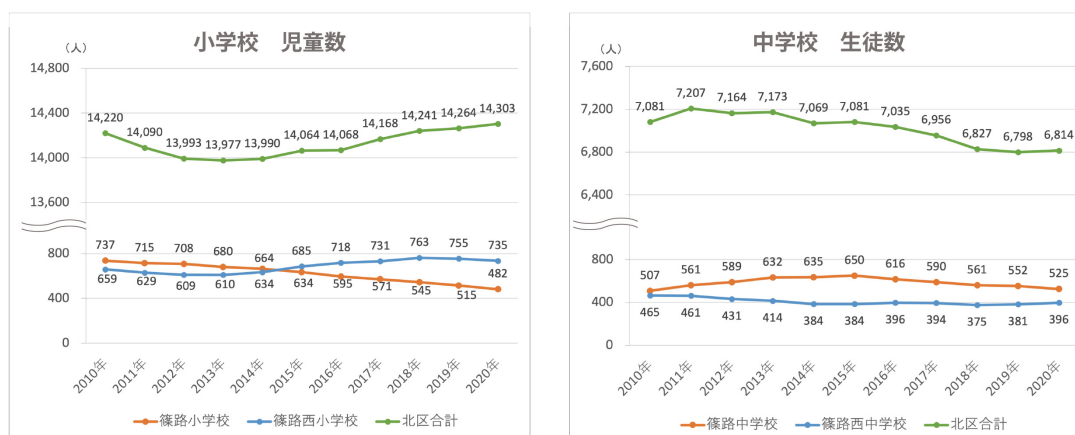


図 地区の小学校の児童数・中学校の生徒数

出典：札幌市「教育データ集」より作成

【高校・大学など】

篠路駅周辺には、高校・大学はありません。

なお、最寄りの高校は、篠路駅から北方向約1.6kmのところ、道立札幌英藍高校、篠路駅から北西方向約1.0kmのところ、市立札幌豊明高等支援学校があります。また、大学は篠路駅から北東方向約3.5kmのところ、北海道教育大学、北東方向約3.2kmのところ、北海道医療大学があります。

※4 国定義保育所等入所待機児童…幼稚園等における一時預かりを利用している児童数、企業主導型保育事業における実施児童数、特定の保育所等のみ希望し入所していない児童数等の数は含みません。

(4) 公園・緑

篠路駅前西公園や上篠路公園などの近隣公園をはじめとした大小さまざまな公園があります。地区内には旧琴似川が縦断しており、その沿道には緑道が整備されています。また地区周辺には、五ノ戸の森緑地などの緑地もあるなど、緑豊かな環境となっています。



写真 五ノ戸の森緑地

(5) 市民利用施設

篠路駅東側には、北区北部3地区を支える篠路出張所と篠路コミュニティセンターがあり、それぞれ行政窓口、活動・交流の場として区役所・区民センターの役割を補完しており、多くの住民に利用されています。

北区北部地区の市民利用施設

篠路茨戸まちづくりセンター (篠路出張所)	地域のまちづくり活動の支援 戸籍証明・住民票・印鑑証明の発行 転居届や出生届などの届出 介護保険の要介護認定申請の手続き 母子健康手帳、児童手当などの手続き など
篠路コミュニティセンター	地域のサークル活動・スポーツ活動・会合や生涯学習等の場（貸室）、地域の展示、図書の閲覧・貸出 など
太平百合が原まちづくりセンター	地域のまちづくり活動の支援 戸籍証明・住民票・印鑑証明の発行 など
太平百合が原地区センター	地域のサークル活動・スポーツ活動・会合や生涯学習等の場（貸室）、地域の展示、図書の閲覧・貸出 など
拓北・あいの里まちづくりセンター	地域のまちづくり活動の支援 戸籍証明・住民票・印鑑証明の発行 など
拓北・あいの里地区センター	地域のサークル活動・スポーツ活動・会合や生涯学習等の場（貸室）、地域の展示、図書の閲覧・貸出 など



写真 篠路出張所



写真 篠路コミュニティセンター

しのろ紙袋ランタ
ーンまつり実行委員会

コミュニティセンター前にて実施していた「しのろ紙袋ランタ
ーンまつり」を、2017年に場所を篠路駅東口駅前に移
し、毎年2月頃に開催。

篠路地区街づくり
促進委員会

連合町内会・商店会・JA・地域団体により構成された組
織で、前身は「篠路地区開発計画対策委員会」。平成9年
(1997年)に名称を改め、「議論の場をつくります」「情
報の提供をします」「魅力的な街づくりに取組ます」の活動
を3本柱としてまちづくりを推進。

篠路チヨボラ会

篠路地区の高齢者が地域社会への参加を意識と生き甲斐を実
感しながら、お互いに絆を強めていくことを目的とする活
動。旧琴似川河川敷の草刈り、花壇の手入れ、ゴミ拾い、
チヨボラ農園活動、食事会、交流会などを実施。

篠路・茨戸地区
社会福祉協議会

「互いに支え合う福祉のまち」を目指して公的施策及び社会
福祉事業関係機関・団体並びに地域住民が協力して社会福祉
の増進を図ることを目的とする。福まちパワーアップ事業、
ふれあい交流会、しのろばらと福祉のつどい、福祉体験教室
会・認知症サポーター養成講座などを実施。

篠路・茨戸
連合町内会

約50の町内会・自治会で運営される。しのろばらとスノー
フェスティバル、篠路・茨戸夏まつり・納涼盆踊り大会など
を実施。

特定非営利活動法人
てんびんばかり
北海道

篠路駅西口駅前広場の環境美化活動、防犯パトロール等の地
域安心安全活動などの社会貢献やボランティア活動の支援。

ホッと篠路21

活動テーマは「こんな篠路にしたい! ①自然があふれ人
にやさしいまち ②歴史や文化を大切にすまち ③元
気がいっぱいふれあいのまち」。五ノ戸の森ゴミひろい、
五ノ戸の森自然観察会、篠路コミュニティセンター文化祭
展示などの作成などを実施。

(五十音順)

地域行事

篠路神社での例大祭、篠路中央商店街振興組合による篠路商
店街まつり、篠路コミュニティセンターでの篠路コミセン夏
まつり・篠路文化祭など。

(2) 歴史と文化

多様な団体が連携しながら様々な活動・取組が実施されています。

篠路駅周辺地区の歴史と文化

篠路コミュニティセンターの藍と篠路歌舞伎の展示

- 札幌市北区篠路3条8丁目
- 明治中ごろ篠路の特産だった藍。そのゆかりの地として藍染めの作品を展示しています。また、篠路歌舞伎の資料も見学できます。
- 篠路中央保育園園児による篠路文化祭での「篠路子ども歌舞伎」も行われています。



篠路駅周辺の倉庫群

- 札幌市北区篠路3条7丁目
- かつて、全国に向けた玉ねぎ発送に活用されていた石造りやレンガ造りの倉庫が篠路駅周辺に残されています。



篠路獅子舞

- 札幌市北区篠路4条7丁目篠路神社境内
- 色鮮やかな衣装で踊るこの獅子舞は、100年以上の歴史がある伝統行事です。毎年、篠路神社の秋祭りに奉納されます。



力士・小松山之碑

- 札幌市北区篠路4条7丁目篠路神社境内
- 小松山（本名 下山松太郎）は明治中期の篠路村で、数少ない素人力士として活躍しました。
- ＜碑文＞小松山（本名 下山松太郎）は、明治中期の篠路村で数少ない素人相撲の力士でした。例年、篠路神社の祭礼で大関相撲を奉納し、また、後進の指導にも尽力したことから、本村青年会が中心となり、郷土の誇りとして明治42年（1909年）に碑を建立しました。大正に入って相撲が盛んになるとともに篠路相撲奨励会も発足し、息子の下山元市も立派な大関として活躍しました。



篠路神社の 馬魂碑

- 札幌市北区篠路4条7丁目篠路神社境内
- 篠路経済の礎だった農耕馬、ペルシュロン種のアニー号など名馬5頭を合祀しています。
- <碑文> 篠路村の馬の歴史は明治15年(1882年)、徳島県人滝本五郎が興産社を組織して大農式農業経営を計画して、15頭の馬を導入したのがはじまりで、大正15年(1926年)にはフランスからペルシュロンの種牡馬(アニー号)を輸入するなどして、馬産改良に大きな成果をあげました。昭和29年(1954年)の976頭をピークとした馬の歴史は農業の機械化により昭和50年(1975年)代に幕を閉じました。農業経営の動力として、また貴重な収入源としての農業の担い手であった篠路名馬を称えるため、アニー号など5頭を合祀しています。昭和44年(1969年)に建立されました。



龍雲寺の 馬頭観世音

- 札幌市北区篠路5条10丁目龍雲寺境内
- 開拓農家の家族とともに篠路開墾に汗を流した農耕馬をたたえて建てられました。
- <碑文> 篠路の開拓時代、その家の手足となって働いた農耕馬。この横行場の健康を願うとともに魂を慰めるため、当時の開拓農民が大正9年(1920年)に建立したものです。篠路開拓者の心のよりどころとして、ともに歩んだこの龍雲寺境内にその地を求めました。



荒井金助と早山 清太郎ゆかりの 地

- 札幌市北区篠路5条10丁目龍雲寺境内
- 幕府の役人荒井金助は、篠路で石狩初の農村づくりに着手しました。早山清太郎もその一人で、篠路の開墾に先駆的な役割を果たしました。



龍雲寺のイチヨ ウ

- 札幌市北区篠路5条10丁目龍雲寺前
- 篠路開拓者の心のよりどころだったこの寺に、鋤柄松太郎が新天地開拓の記念として植えました。



2-5 交通機能

(1) 道路網

篠路駅周辺地区は、南北方向に東8丁目・篠路通が、東西方向に横新道が、東から北へ円弧状に篠路通が通り、地区を概ね1km四方で囲う形で道路網の骨格をなしています。駅周辺と骨格道路を結ぶ役割を篠路駅西通・篠路駅東通や篠路駅中央通（花畔札幌線）が担っています。

平成25年度に策定した「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」に示した土地区画整理、鉄道高架と周辺の道路整備を柱とした一体的なまちづくりを実現していくために、土地区画整理事業、鉄道高架事業、道路整備事業について都市計画決定されており、事業を進めています。



図 篠路駅周辺地区の道路と社会基盤整備

(2) 公共交通機関

鉄道については、南北にJR学園都市線が通っています。篠路駅の乗車人数は近年増加傾向にありましたが、2018年をピークに減少に転じています。

バスについては、地区の南北を縦断するように路線が配置されており、南は札幌ターミナル・地下鉄麻生駅、地下鉄栄町駅と接続、北は篠路10条4丁目行き及びあいの里方面につながるバス路線が形成されており、市内の各地域へとつながる公共交通ネットワークとなっています。

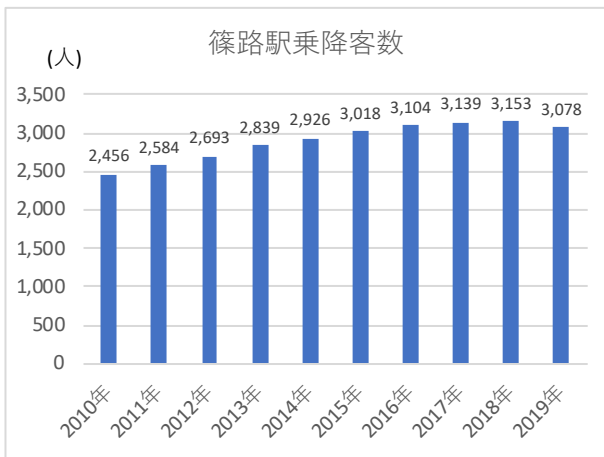


図 篠路駅の乗降客数



写真 篠路駅

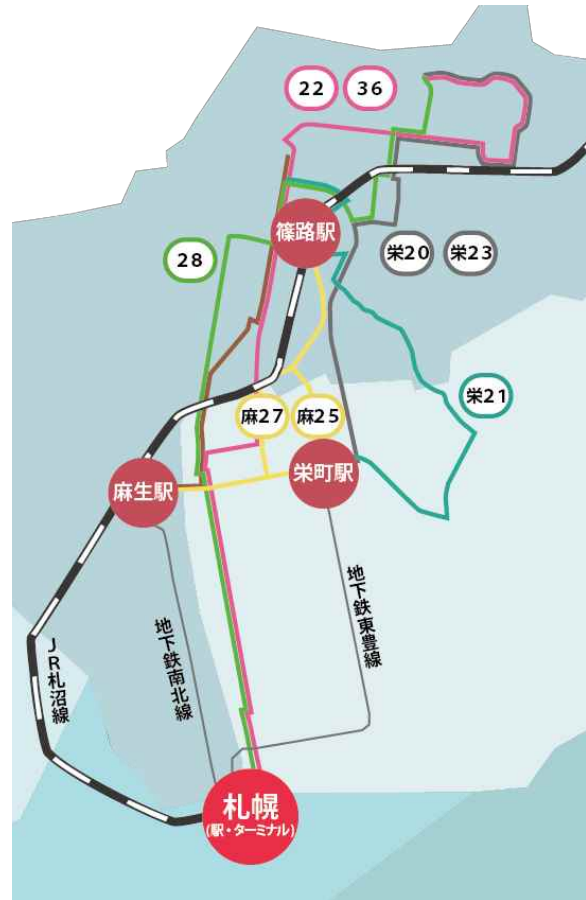


図 篠路駅周辺の公共交通

■篠路駅周辺地区のバス路線

路線	発・着	平日		休日	
		上	下	上	下
篠路駅東側	麻25 麻生バスターミナル～篠路小学校	19	17	14	14
	麻27 麻生バスターミナル～篠路小学校	10	18	14	14
	栄21 栄町駅～篠路10条4丁目	11	11	9	9
	栄23 栄町駅～あいの里4条1丁目	13	19	13	9
		栄20	20	13	7
篠路駅西側	麻33 麻生バスターミナル～篠路10条4丁目	35	31	27 (20)	27 (20)
	36 札幌ターミナル～篠路10条4丁目	35	22	28 (20)	16 (7)
			14		12
	22 札幌ターミナル～あいの里4条1丁目				
28 札幌ターミナル～あいの里4条1丁目	3	5	1	4	

2021年12月現在の1日あたりの本数
()は日曜・祝の本数

2-6 土地利用等の現況

(1) 用途地域

篠路駅周辺地区の用途地域は下図のとおりです（令和4年（2022年）7月現在）。「駅前エリア」の駅東側は近隣商業地域、「東エリア」は第一種低層住居専用地域、第一種住居地域及び近隣商業地域に位置付けられています。また、駅西側は、主に第一種低層住居専用地域、第二種住居地域及び近隣商業地域に位置付けられています。



図 用途地域

(2) 地区計画・市街地再開発事業等

地区周辺では、地域の特性に合わせたきめ細かなルールを住民の皆様と行政が一緒に決める「地区計画」や、民間再開発による第一種市街地再開発事業など、制度を活用したまちづくりが行われています。

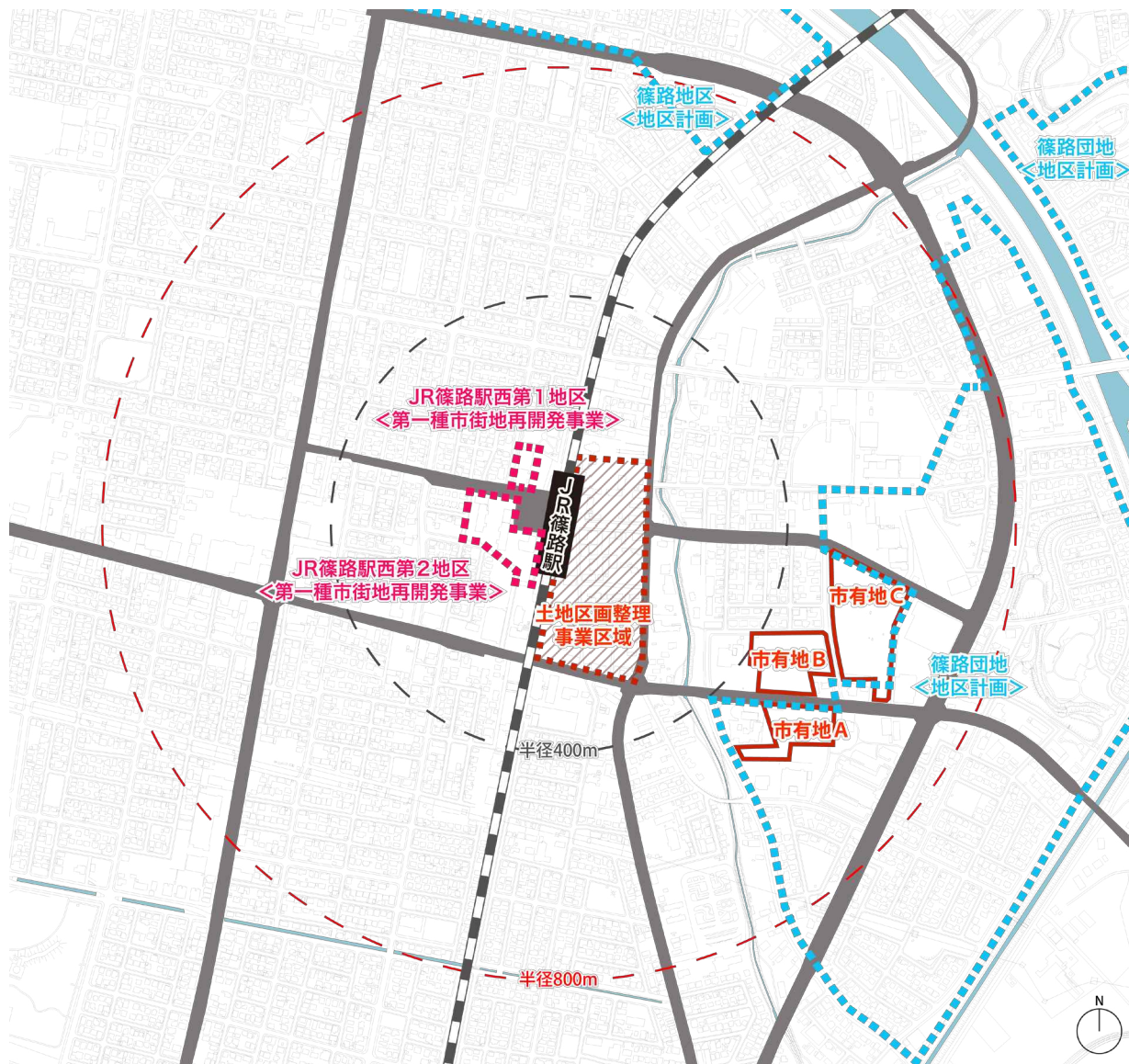


図 地区計画と再開発事業の位置

地区計画

篠路地区

昭和63年7月決定
平成24年12月変更

土地区画整理事業の土地利用計画を基本としつつ、篠路駅周辺地区を4地区に区分し、それぞれの地区にふさわしい合理的な土地利用を図ります。

篠路団地

平成9年3月決定
平成16年6月変更

当該住宅団地造成事業の土地利用計画を基本としつつ、篠路駅周辺地区を9地区に細区分し、それぞれの地区にふさわしい適正な土地利用を図ります。

市街地再開発事業

JR篠路駅西第1 地区第一種市街 地再開発事業

平成16
～平成17年度
：個人施行

建物名称：篠路高洋保育園
区域：0.21ha
延床面積：1,050平方メートル
主要用途：保育園
整備の内容：建築物は、市道篠路72号線に接して、2階建ての保育園を建設し、併せてゆとりある歩行者空間と緑の公開空地を確保しました。

JR篠路駅西第2 地区第一種市街 地再開発事業

平成18
～平成21年度
：再開発会社施行

建物名称：札幌市借上市営住宅レジデンス壱番館、札幌市借上市営住宅レジデンス弐番館、エクセルシオール篠路ステーションフロント
区域：1.1ha
延床面積：17,922平方メートル
主要用途：共同住宅・店舗・駐車場
整備の内容：本事業の内容は、共同住宅の整備により、未利用地や低層建築物の老朽化等の問題を解消し、土地の有効利用が図られ、また、区域内の区画道路の新設及び壁面線の後退により有効な歩道状空地やオープンスペースを確保し、安全で快適な歩行者空間及び潤いのある都市空間を創出しました。

篠路地区住宅団地造成事業

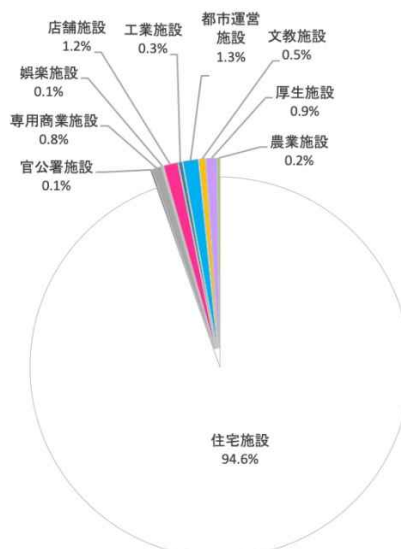
平成12年しゅん功

篠路駅東側では篠路地区住宅団地造成事業（グリンピアしのろ）による整備が行われました。市有地A周辺は地域福祉モデルゾーンとして保育・福祉関連施設が、市有地Bの隣地には篠路コミュニティセンターが立地しました。市有地A・B・Cは分区関連施設用地として札幌市が取得した土地です。

(3) 土地利用

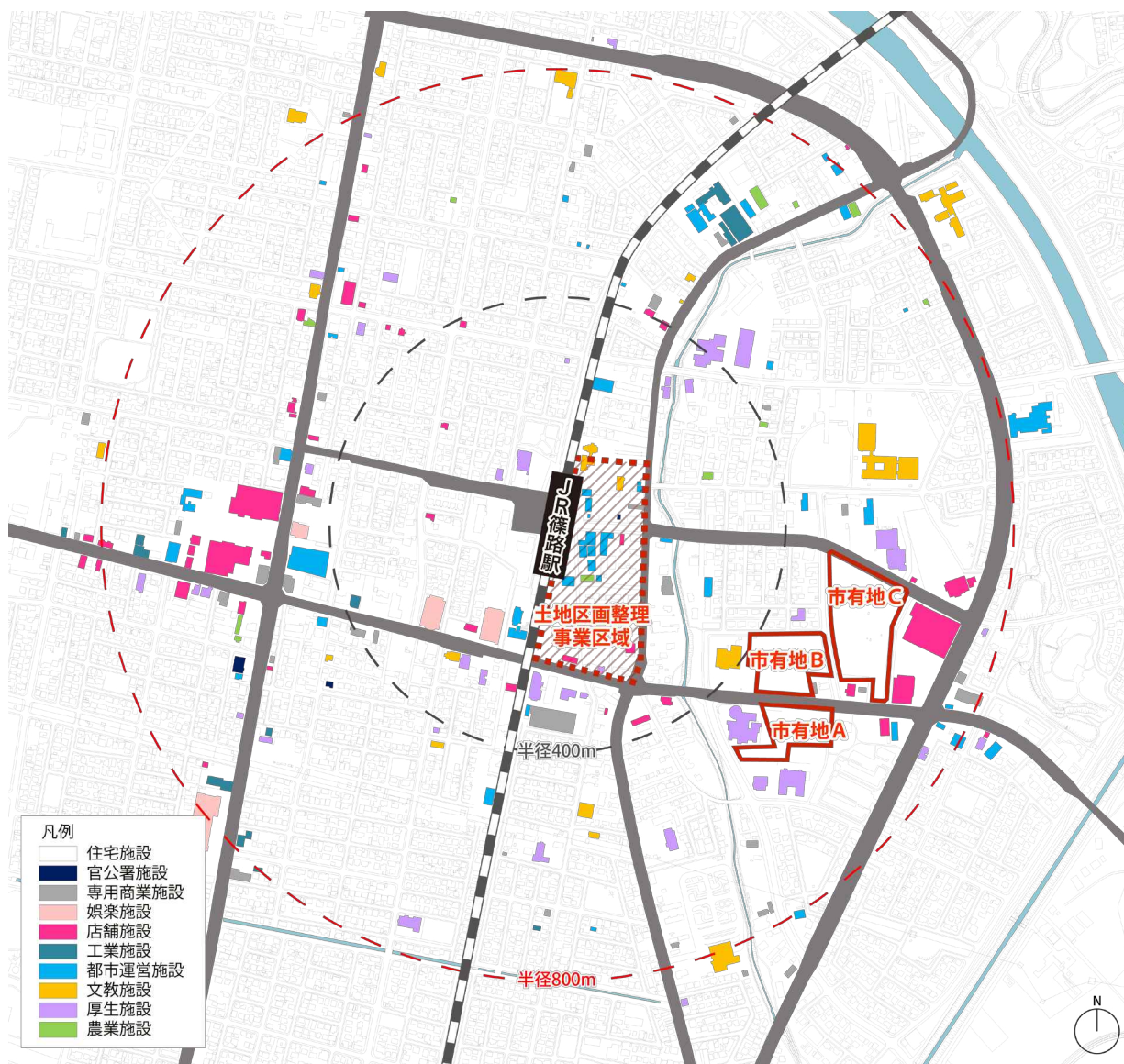
篠路駅周辺の土地利用は、90%以上が住宅となっています。また、一戸建に住む世帯割合が約7割（平成27年国勢調査より）と高い地域です。

住宅以外の用途は、横新道及び東8丁目篠路通沿道を中心に、店舗施設、都市運営施設（運輸倉庫施設等）などが立地しています。



出典：札幌市都市計画基礎調査データ（令和2年度末時点）

図 篠路駅から800m圏に立地する施設



出典：札幌市都市計画基礎調査データ（令和2年度末時点）

図 篠路駅周辺地区の施設

2-7 地域意見

(1) 篠路まちづくりワークショップ（平成28年度）

みんなの想いとりまとめ会議（平成29年度）

平成28年度に実施した篠路まちづくりワークショップでは、広域の「篠路地区」と「篠路駅周辺地区」それぞれの良いところや課題を踏まえながら、これから10年先の篠路がこうあって欲しいという想いが「将来像」としてまとめられました。

また、ワークショップで出された意見を整理する中で見えてきたキーワードより、3つの「まちの機能像」、機能像を実現するための6つの「まちづくりの視点」が整理されました。



また、平成29年度に実施された「みんなの想いとりまとめ会議」では、平成28年度に取りまとめられた「みんなの想い」とアンケート結果を踏まえ、「つかう」「つくる」「つたえる」の3つの視点で篠路のまちづくりを次のステップに進めるために必要な活動や取組などについて意見交換を行いました。

(2) アンケート調査

篠路駅周辺地区に関して実施してきたアンケート調査について、地区の方向性や土地利用に関連する事項を整理しました。

1) 篠路駅周辺地区まちづくりに関するアンケート（平成 29 年度実施）

『篠路駅周辺地区が目指すべきまちづくりの方向性』について、地域の皆様がどのように考えているかを把握するため、篠路 1 条～篠路 10 条にお住まいの 18 歳以上を対象に、郵送による配布、回収により（発送数 1293、回答数 437）アンケート調査を実施しました。

■結果概要

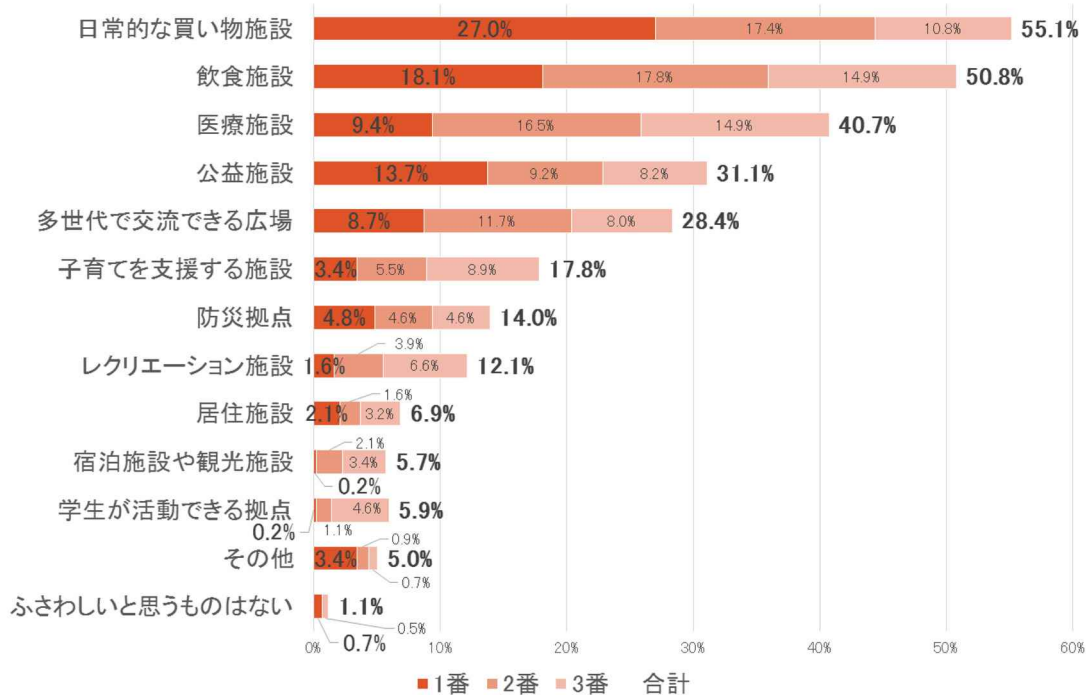
① 将来の篠路駅前の街区に立地・整備されるにふさわしいと思う施設

駅前の街区には、「日常的な買い物施設」（55.1%）、「医療施設」（40.7%）、「公益施設」（31.1%）といった生活利便性を向上させる機能と「飲食施設」（50.8%）、「多世代が交流できる広場」（28.4%）といった集う場所の提供が求められています。

② これからの篠路駅東側駅前の魅力向上に向けた取組について重要だと思うこと

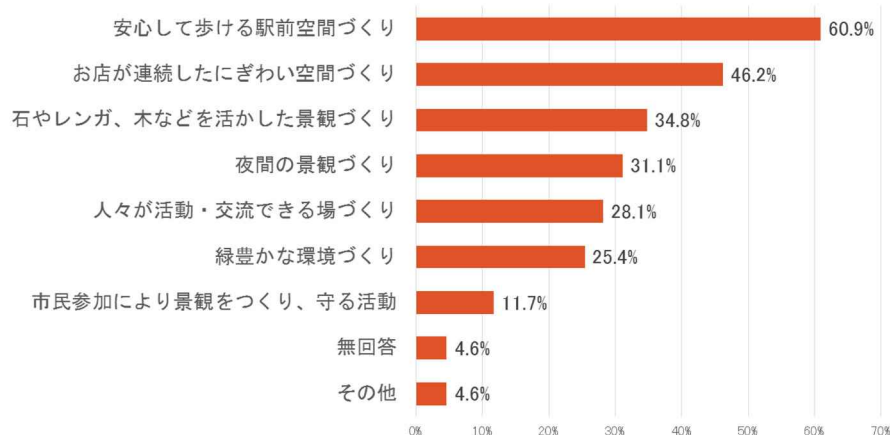
篠路駅東側駅前の魅力向上に向けた取組として、広い歩道など「安心して歩ける駅前空間づくり」（60.9%）が最も重視されています。

1-Q3 篠路駅東側において土地区画整理事業による社会基盤整備が検討されています。あなたが将来の篠路駅前前の街区（下図参照）に立地・整備されるにふさわしいと思う施設は何ですか。（優先順位が高いと思うものから順に3つ番号をご記入下さい。）



「駅前街区に立地・整備されるにふさわしいと思う施設」
(平成29年度アンケートより抜粋)

4-Q2 これからの篠路駅東側駅前の魅力向上に向けた取組について、あなたが重要だと思うものは何ですか。（当てはまる項目すべてに○）



「駅前街区に立地・整備されるにふさわしいと思う施設」
（平成 29 年度アンケートより抜粋）

2）北区北部における居住者ニーズ（平成 30 年度実施）

身近な生活利便施設に関するニーズを把握するため、北区北部地域に居住する 18 歳以上の市民 2000 人を対象に郵送による配布、回収（一部 web 回収）によりアンケート調査を実施しました（回答数 794）。

■結果概要

① 篠路駅周辺地区における施設や機能を考える上で重要だと思うこと

「買い物環境の充実」（54.0%）を重要と考えている方が最も多く、次いで「高齢者にやさしいまちづくり」（40.3%）、「子育てしやすい環境づくり」（36.6%）などが多くなっています。

② 篠路駅前に、生活環境をより良くするために「今後あると良い」と思う施設等

「飲食店（喫茶店・カフェ、レストラン）」（38.0%）が最も多く、次いで「総合病院」（36.9%）が多くなっている。その他、「スーパー」（30.9%）、「コンビニエンスストア」（23.7%）、「書店」（18.6%）などの商業施設と「温浴施設」（31.4%）、「図書館」（21.0%）、「運動施設」（19.0%）などの遊戯・娯楽施設が比較的多い傾向がみられます。

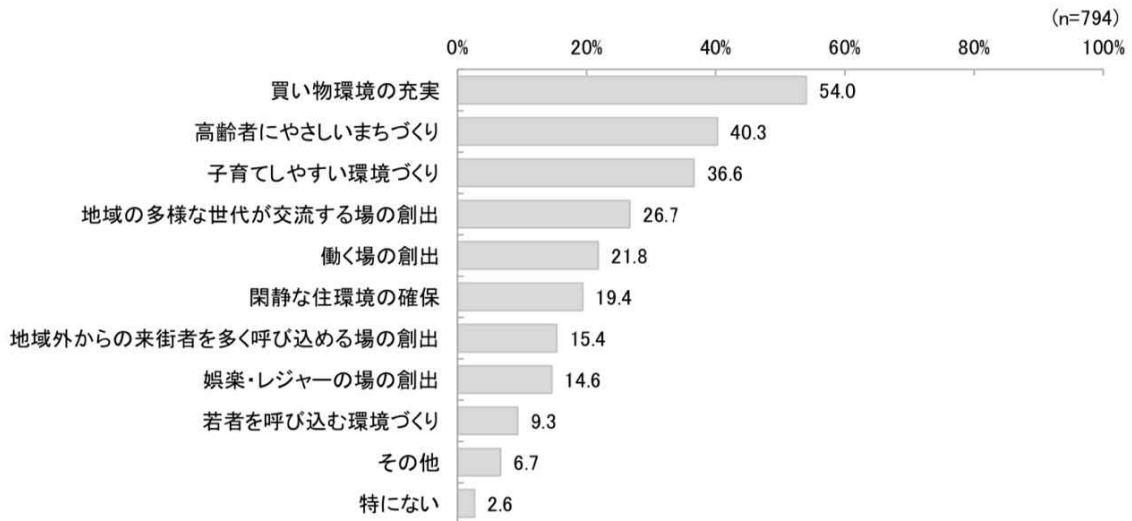
③ 篠路駅東側に、生活環境をより良くするために「今後あると良い」と思う施設等

「総合病院」（36.0%）が最も多く、次いで「温浴施設」（31.1%）「飲食店（喫茶店・カフェ・レストラン）」（30.2%）が多くなっている。その他、「スーパー」（26.7%）、「ホームセンター」（22.3%）などの商業関連施設が比較的高い傾向となっています。

【Q1】

これからの篠路駅周辺地区における施設や機能を考える上で、あなたが重要だと思うことは何ですか。(特に当てはまる項目3つまで)

「買い物環境の充実」が約5割で最も高く、次いで「高齢者にやさしいまちづくり」「子育てしやすい環境づくり」が3~4割で高くなっている。



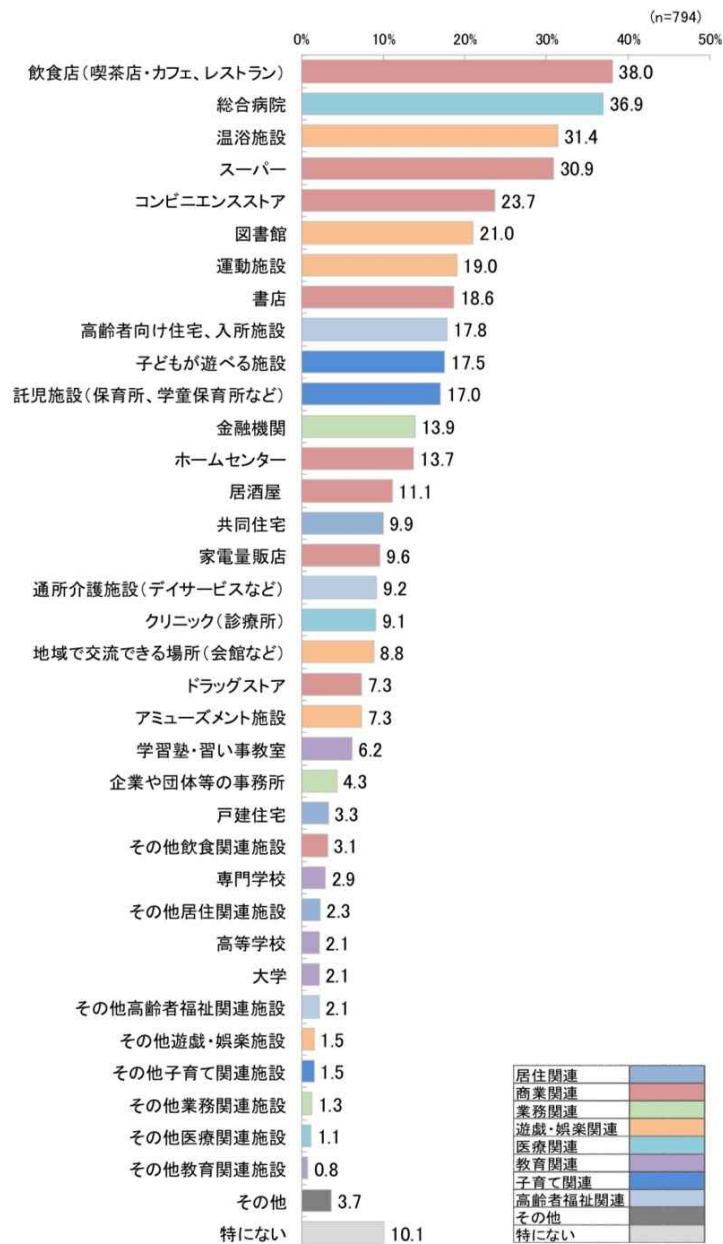
「篠路駅周辺地区における施設や機能を考える上で重要だと思うこと」
(平成30年度アンケートより抜粋)

【Q3-1】

【A】篠路駅前に、あなたの生活環境をより良くするために「今後あると良い」と思う施設等は何ですか。(特に当てはまる項目5つまで)

「飲食店（喫茶店・カフェ、レストラン）」が最も高く、「総合病院」とともに約4割となっている。このほか、「スーパー」「コンビニエンスストア」「書店」などの商業施設と、「温浴施設」「図書館」などの遊戯・娯楽施設が上位となっている。

また、「高齢者向け施設（サービス付き高齢者住宅、老人ホームなど）」「子どもが遊べる施設」「託児施設（保育所、学童保育所など）」は約2割で高齢者や子育て関連も比較的高くなっている。

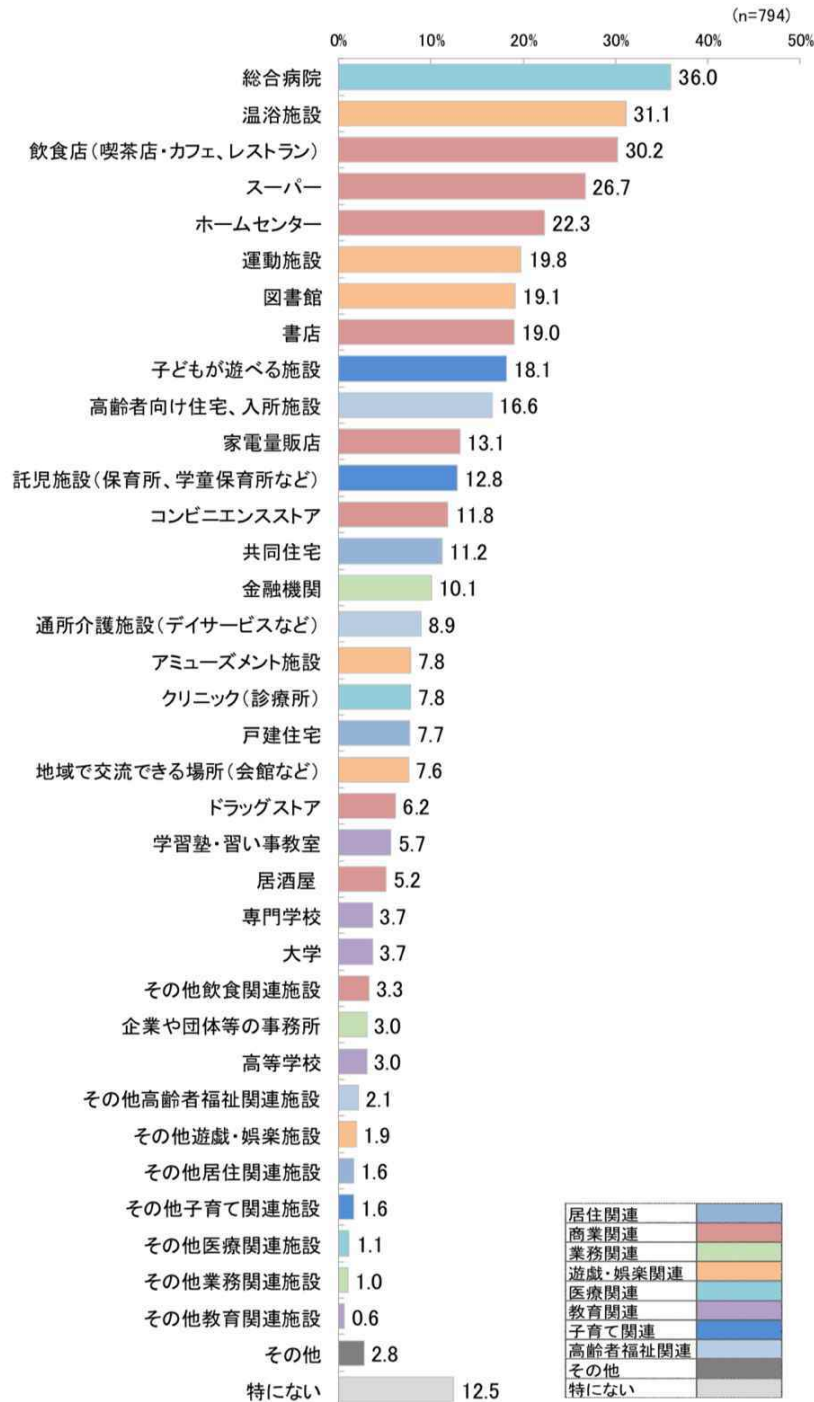


「篠路駅前にあると良いと思う施設」
(平成30年度アンケートより抜粋)

【Q4-1】

【B】篠路駅東側に、あなたの生活環境をより良くするために「今後あると良い」と思う施設は何ですか。(①～⑳のうち特に当てはまる項目5つまで)

「総合病院」が約4割で最も高く、次いで「温浴施設」「飲食店(喫茶店、カフェ、レストラン)」「スーパー」「ホームセンター」がそれぞれ2～3割となっている。このほか、「運動施設」「図書館」「書店」「子どもが遊べる施設」「高齢者向け住宅、入所施設」などが上位となっており、商業施設、遊戯・娯楽施設、子ども関連や高齢者福祉施設が高い傾向がみられる。



「篠路駅東側にあると良いと思う施設」
(平成30年度アンケートより抜粋)

(3) 篠路駅東口駅前への在り方検討会議

平成30年3月5日に都市計画決定された土地区画整理事業、鉄道高架事業、道路整備事業に関連し、土地区画整理事業によって整備される予定の篠路駅東口駅前広場について、交通結節点としての機能及び利用者の安全性、利便性を確保するとともに、将来のにぎわい創出に向けた整備内容を検討することを目的に、地域委員、有識者委員で構成される「篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議」を開催しました。

その中で、地区の方向性や土地利用に関連する意見が付帯意見として整理されました。

1) 篠路駅東口駅前広場の在り方について（付帯意見）（平成30年）

① 篠路駅東口駅前広場のレイアウト

篠路駅東口駅前広場に車両が流入・流出する際に、安全性が担保できるよう、レイアウトの検討が必要です。また、篠路駅東口駅前広場の歩行者空間に車両の出入り発生が想定されるので、安全性に配慮する必要があります。さらに、造成に当たっては適宜、情報提供を速やかにお願いします。

② バス関連の整備

バス停が設置される場合は、駅舎からの快適なアクセスを実現するため、カバードウォークの設置などの検討をお願いします。また、待合スペースにはベンチの設置など快適な待合環境を整えていただきたいと思います。

③ 松の木

地域の資産として考えており、行政には残していけるよう努力いただくとともに、私たち地域住民も行動していきます。

④ 篠路出張所のアクセス確保

篠路駅や、東西自由通路を通過して西側から篠路出張所に訪れる方の利便性の高いアクセスが確保できるよう、行政には引き続き検討いただくとともに、私たち地域住民も行動していきます。

⑤ 篠路駅東通と花畔札幌線の交差点の信号機設置

篠路駅東通と花畔札幌線の交差点について、安全性を確保していくため、信号機の設置が必要であると考えています。私たち地域住民としても、設置に向けて行動していきたいと考えており、行政にも協力をお願いします。

⑥ 災害に強いまちづくり

災害に強いまちづくりを推進していただくとともに、私たち地域住民も行動していきます。

⑦ 土地利用計画制度の適切な運用

篠路駅周辺において、周辺の土地利用状況や交通状況等を十分勘案したうえで、建蔽率や容積率といった土地利用計画の在り方について適切な検討をお願いします。

2) 篠路駅東口駅前広場の在り方について（付帯意見）（令和元年）

① 事業の早期実現、早期完了

事業の早期実現、早期完了に向けて、札幌市には引き続き努力していただくようお願いいたします。

② 地域住民への情報提供

今後の設計や工事の進捗に合わせて、地域住民への情報提供や意見を収集する機会を設けていただくようお願いいたします。

③ にぎわいのあるまちづくり

篠路駅周辺地区が地域交流拠点として相応しいまちとなるよう、にぎわいづくりができる駅周辺の整備やまちづくりの推進をお願いいたします。

2-8 まとめ

(1) 篠路駅周辺地区の現況整理

篠路駅周辺地区の現況の要点は以下のとおりです。

① 閑静な住宅街

地区の土地利用は9割以上が住宅、特に戸建が7割を越える住宅街です。五ノ戸森緑地や上篠路公園など緑豊かな住環境となっています。

② 子育て世代の流入、③ 高齢化の進行、若い世代の減少

人口減少・少子高齢化が進行しています。年代別の増減を見ると、20代の地区外転出が多いことから、進学や就職のタイミングで篠路を離れていると考えられます。また、0～10代・30代の転入が見られ、子育て世代の居住地として選ばれていると考えられます。

平成30年度のアンケートの結果で、篠路駅周辺地区における施設や機能を考える上で重要な事項として、「子育てしやすい環境づくり」や、「高齢者に優しいまちづくり」が上位に選ばれており、流入する子育て世代や進行する高齢化への対応が求められています。

④ 多様な団体による地域活動

まちづくりに地域住民が携わってきた長い歴史があり、現在でも町内会や商店街、その他多様な地域団体によるイベントや活動などの取組が行われています。社会基盤整備に伴い創出される新たな空間も、地域活動の場として活用されることが期待されます。

⑤ 行政・交流機能の立地

地区内には北区北部地区の行政施設（篠路出張所）、地域活動の拠点となるコミュニティセンターが立地しています。

⑥ 駅周辺の低未利用地

社会基盤整備を契機とした低未利用地（市有地等）の有効活用が期待されます。

⑦ 駅前の生活利便施設・にぎわいの不足

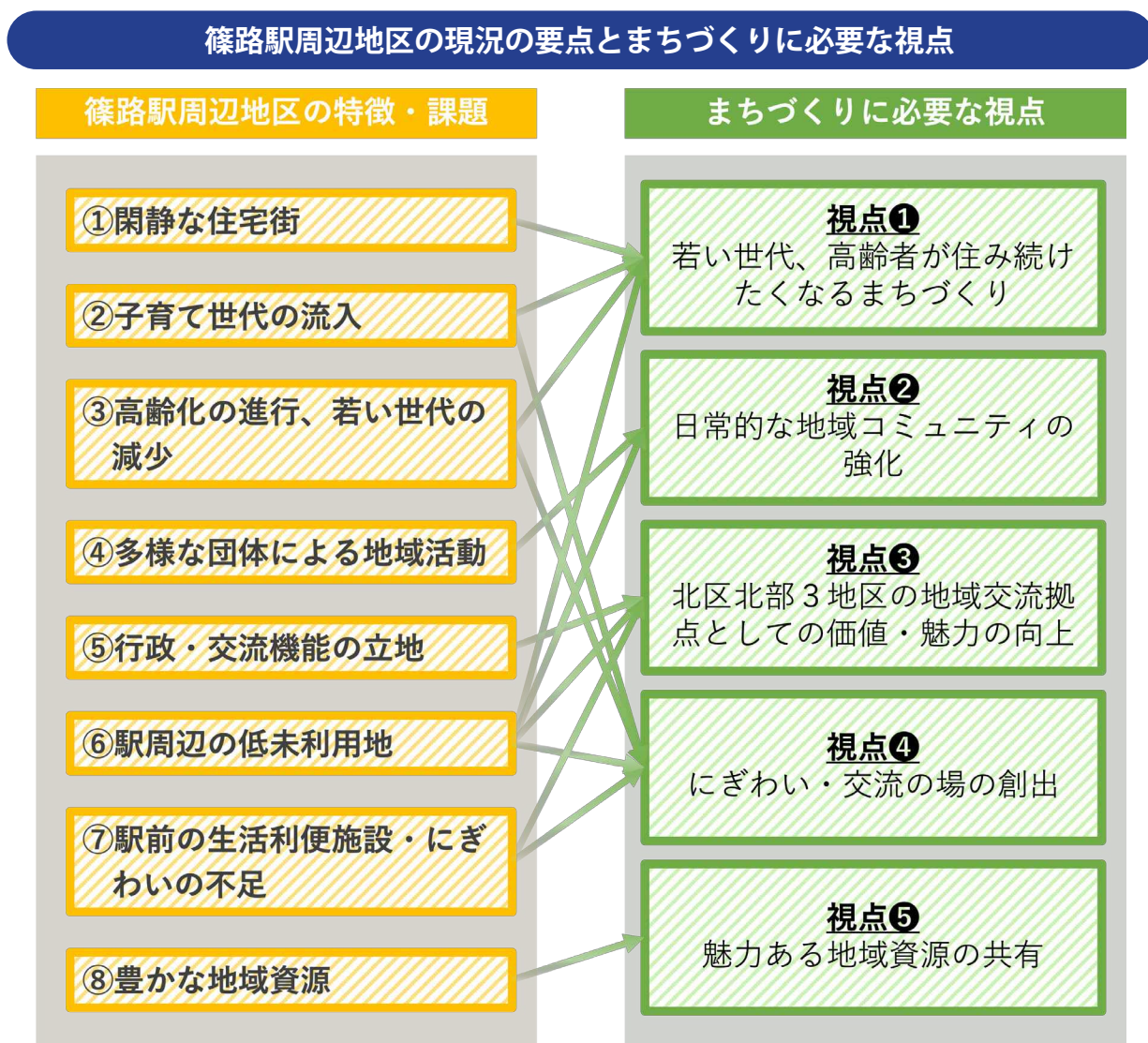
地区内には生活利便施設が一定程度立地していますが、駅周辺の店舗やにぎわいが少なく、日常的な買い物施設などの立地や交流・にぎわいの場の創出が課題となっています。また、気軽に立ち寄れる施設がなく、閑散としているといった意見が示されており、カフェなどの飲食店の出店も期待されます。

⑧ 豊かな地域資源

市内最古の神社といわれる篠路神社や、駅周辺の発展の歴史を伝える倉庫群をはじめとする歴史資源、旧琴似川沿いの緑道などの環境・景観資源、藍染めや篠路歌舞伎など受け継がれる伝統・文化など、貴重な地域資源が多く存在しています。一方で、こうした地域資源の魅力を発信する担い手や機会が、高齢化や地域活動の衰退により減少しています。

(2) まちづくりに必要な視点

現況整理より、篠路駅周辺地区のまちづくりに必要な視点を整理しました。



視点①：若い世代、高齢者が住み続けたくなるまちづくり

今後も続く人口減少・高齢化を見据え、子育て世代の継続的な流入に繋がる篠路の魅力の維持向上と、若い世代が住み続けたくなる仕掛け、高齢者にとって住みやすいまちづくりが必要です。

視点②：日常的な地域コミュニティの強化

篠路駅周辺地区では、ランタン祭りやスノーフェスティバルをはじめとした、多様な団体による地域主体イベントなどにより交流の機会が創出されていますが、アンケート結果などからも気軽に立ち寄れる場に加えて、日常的なコミュニティ強化が求められています。

視点③：北区北部3地区の地域交流拠点としての価値・魅力の向上

篠路駅周辺地区は、北部3地区を繋ぐ公共交通（鉄道やバス）軸が複数通っており、拠点として出張所とコミュニティセンターが立地していますが、周辺に立ち寄れる施設が少なく、北区北部3地区の拠点としての新たな価値や魅力向上が必要です。

視点④：にぎわい・交流の場の創出

篠路駅東側は店舗やにぎわいが少なく、過年度のアンケートでは、篠路駅周辺地区には「買い物施設の充実」に続き、「高齢者に優しいまちづくり」・「子育てしやすい環境づくり」が求められております。また、多世代が交流できる場が求められており、にぎわい・交流の場の創出が期待されます。

視点⑤：魅力ある地域資源の共有

篠路らしい魅力あるまちづくりには、開拓から始まる長い歴史の跡、篠路歌舞伎や藍染、獅子舞などの伝統・文化、地区外からも人が訪れる五ノ戸の森緑地や歩いていて気持ちの良い旧琴似川沿いの緑道等の自然環境など、多様な地域資源の共有及び配慮が必要です。